

いま 現在こそ、「水俣」に学ぼう

何年かぶりの HP 更新のなかで、原田先生の講演録を公開しました。

<http://www.tsutaeru.jp>

上記からサイトに入っていただくと、以下となります。バナーをクリックして共有ください。

現在（いま）こそ、「水俣」に学ぼう

新型コロナウイルスによって、全世界のひとびとがかつてない体験のただなかにあります。

「水俣」を伝えるという活動を通じて、人間的想像力を問う活動を重ねてまいりましたが、コロナ禍にあって、人間的想像力の可能性をさらに意識しています。

現在、だから「水俣」に学ぼうではないか。奇病への恐怖、患者への差別。しかも、感染るものでなく隠蔽に彩られた人の為した病いなのに、60年以上経ても、検診もせず、補償も行わない。それがどんなことなのか、今こそ思いを馳せよう。水俣の人々は、それでも「じゃなか娑婆」へと希望を捨てない。

学びの導き手として、(有)くんぷる さんのご援助をもって『いま、「水俣」を伝える意味～原田正純講演録』（2015年9月30日改訂版発行）をpdfファイルで公開いたします。

[『いま、「水俣」を伝える意味～原田正純講演録』を読む](#)

この呼びかけは、しかし、とても残念なことかもしれません。

世界的な新型コロナウイルス感染蔓延のなかで、薄々、そうではないかと思っただけの事柄が改めて、形を整えてきた、ということもあります。

クニのすがた。システムのゆくえ。つちかわれた差別意識。そもそも、暮らしとは何だったのか。

「水俣」を子どもたちに伝えるとき、その<想像力=理性>に触れてきたものの、実際にはすごく足りなかったんだなと思知らされました。なので、原田先生の声に立ち戻ることになりました。

何のために？ 何を求めて？

「じゃなか娑婆」を願うから、と答えたいと思います。

